

平成30年度 9年間の学びの再構築

すべての子どもが社会に出て自立して
生きていく力をつけることができる教育の確立

1 現在地と目的地

鹿北小中学校の教育課程再編

→ゆるやかな「4・3・2」制へ移行
9年間の連続した学びを順調に駆け上がっ
てきた時の中学3年生の姿を見てみたい。



山鹿市「小中一貫教育」モデル校指定

「小中交流」から「小中連携」までは進ん
できた。それでは、その先の「小中一貫」の
姿をどう描くのか。

目的地



現在地



2 「6・3制」から「4・3・2制へ」

- (1) 各期集会の計画的実施
(定期集会・小4修了式・中1修了式)
- (2) 9年間の全体計画作成
(総合的な学習の時間・人権教育)
- (3) 児童会・生徒会連携強化のための組織改編
- (4) 「4・3・2」制の教育モデル構築(前出)

・めざす子ども像
への近づき

・だれもが、社会
で自立して生きて
くことができる力を
身につけることが
できる教育実践

3 各期集会

各期ごとに集会や活動を企画・運営 → リーダー育成

I期:小1～小4

小4がリーダーとな
り、責任・役割への自覚
を芽生えさせるととも
に、生活・学習の基礎的
な姿勢を育てる。

II期:小5～中1

中1がリーダーとな
り、小学校での学びを生
かし、小中学校の確かな
接続の中で中学校生活
をスタートさせる。

III期:中2・中3

中3がリーダーシッ
プを最大限に発揮し、さら
なる資質向上を図ると
ともに、次年度のリーダ
ーを育てる。

小4と中1は修了式実施。先輩、保護者、教職員からの言葉を通して、次のステー
ジへと進む自覚を持たせる。すべての児童・生徒に「4・3・2制」の意識付けを行う。

	7月	10月	12月	2月
集会内容 (例)	人権旬間の取組	学習成果 活動報告	なかよし駅伝 に向けて	集会の振り返り 修了式(リーダー引 き継ぎ等)
事前指導	7月2日(火)	9月28日(金)	11月28日(金)	2月8日(金)
実施日	7月12日(木)	10月18日(木)	12月13日(木)	2月28日(木)
事後指導	7月17日(月)	10月18日(月)	12月17日(月)	3月4日(月)



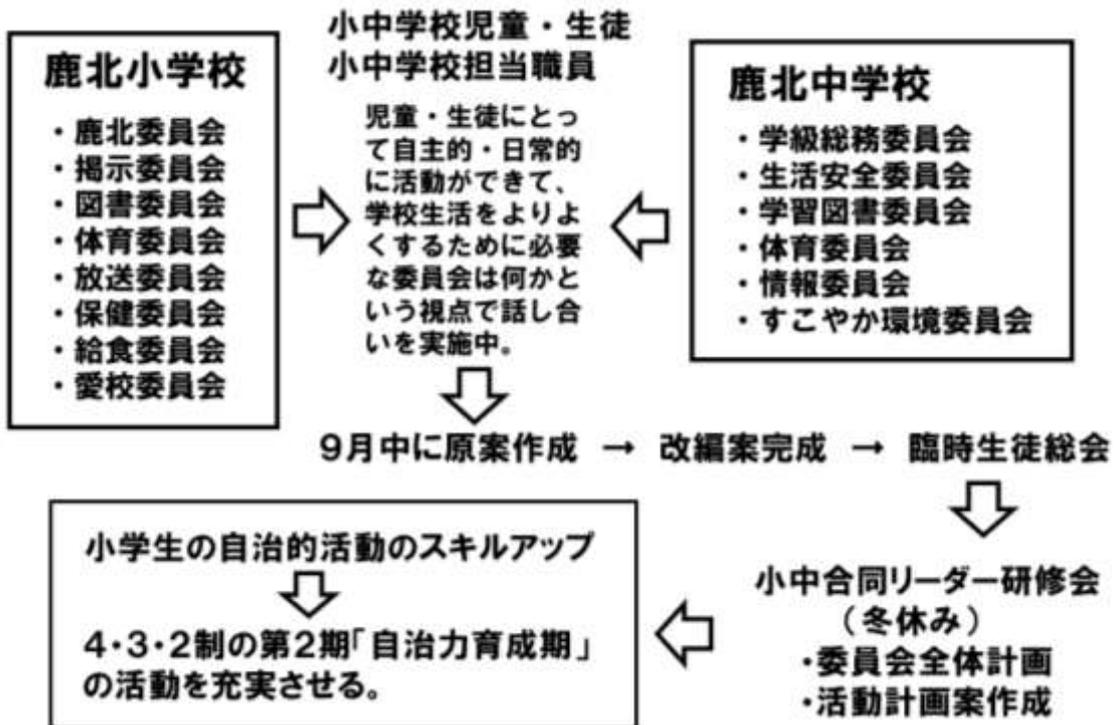
4 小中9年間の全体計画 ～総合的な学習の時間～

	Ⅰ期 (1・2・3・4学年)			Ⅱ期 (5・6・中1)			Ⅲ期 (中2・中3)	
	目	気付く	知る	深める			発信し、行動する	
	地域のことを知ろう			地域の魅力と課題を見つけよう			地域のためにできることをしよう	
標	○身の回りのこととのふれあいを通して地域のよさに気付く	○探求的な学習に関心を持って取り組み、地域の特徴や現状を知ることができる。また、学習の仕方や手順を身に付け、調べたことを発表する。	○計画的に探求的な学習を進め、いろいろな学習方法を知り、自分の意見や考えを適切に伝えられるようにする。 ○地域に関する学びを深めることによって、将来について夢や希望を持ち、自分の進路について考える。	○主体的・創造的に探求的な学習に取り組み、自分なりの考えを相手や目的に応じて表現する。 ○地域の良さを再認識し、将来の生き方を幅広く考え、夢や希望の実現のため、自分に合った進路選択ができる。				
注	【1・2学年】 50時間	【3学年】 70時間	【4学年】 70時間	【5学年】 70時間	【6学年】 70時間	【7学年】 50時間	【8学年】 70時間	【9学年】 70時間
テーマ	学校や地域のくらしを見つめよう	幸の国「かほく」の魅力を探そう	先人の知恵に学ぼう。	地域の魅力再発見しよう。(地域の産業)	地域の伝統を受け継ぐ一員になろう。	鹿北町の魅力と課題を見つけよう。	地域の一員としての役割を考えよう。	これからの未来の鹿北町を提案しよう。
内容	生活科の内容に準ずる。	草花の栽培 梅干し作り	地域伝統文化(岩野神楽)	環境教育(水俣病学習)	福祉体験活動(サロン訪問)	地域調べ学習(歴史・自然)	職場体験学習(各事業所)	福祉体験活動(各事業所)
		地域産業学習(林業)	地域産業学習(鹿北茶)	地域産業学習(稲作体験)	地域伝統文化(鹿北太鼓)	地域産業学習(和紙・養蚕)	平和学習(修学旅行)	地域貢献活動(かほくまつり)
	表現活動(学習発表会)	表現活動(学習発表会)	表現活動(学習発表会)	表現活動(学習発表会)	表現活動(修学旅行) 表現活動(学習発表会)	表現活動(清流祭)	表現活動(清流祭)	表現活動(清流祭)
			キャリア教育(1/2成人式) (地域で働く人)	キャリア教育(保育園実習) (地域で働く人)	キャリア教育(夢を叶える)		キャリア教育(職場体験学習)	キャリア教育(高校体験入学)

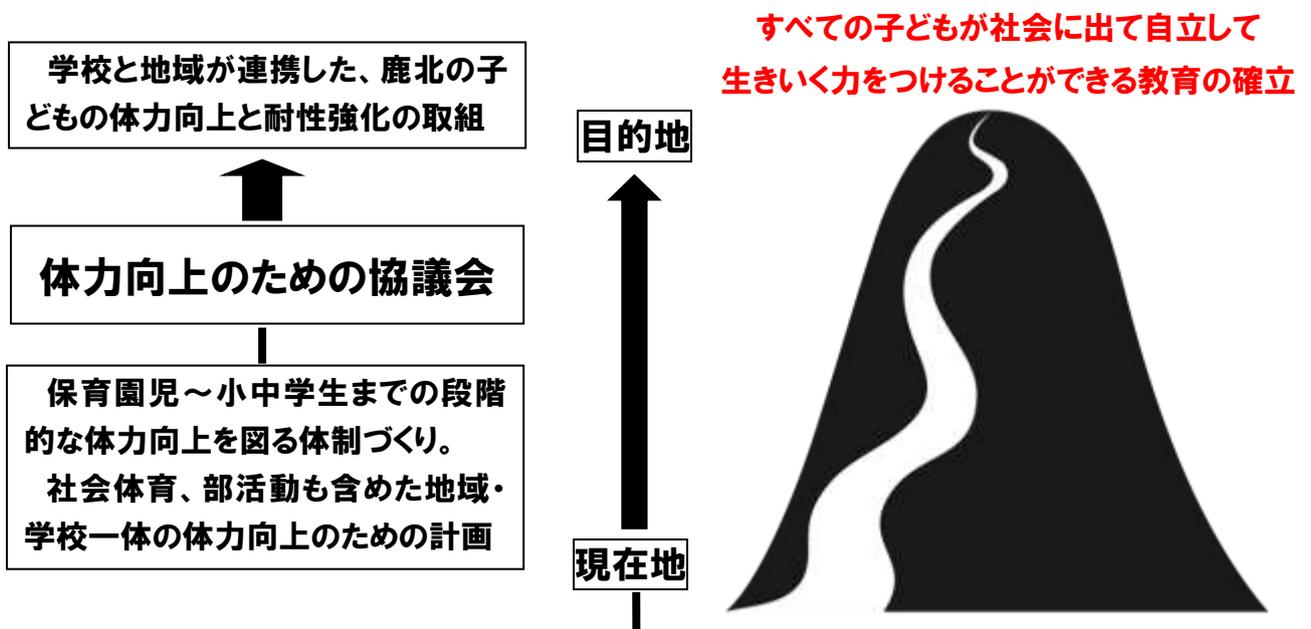
9年間の連続した学び
系統性・継続性

今年度は、総合と人権教育で全体計画作成。次年度以降、順次作成。

5 児童会・生徒会の連携



平成31年度（案）体力向上・耐性強化



(1) 小学校の運動部活動の社会体育への移行による影響。

- ・運動を行う時間の減少、体力低下。（社会体育に参加しない。参加できない。）
- ・継続的に目標に向かって「挑戦する」、「鍛える」場面の減少による耐性低下。
- ・社会体育の活動時間が夜の時間となり下校後の時間の使い方が難しい。（学習時間、睡眠時間確保等）

(2) 中一ギャップの拡大

- ・「挑戦する」、「鍛える」場面をあまり経験することなく中学校入学。中学校部活動への対応ができない。入学後大きなストレスを感じる生徒。